

兵の駆逐能力の下、先づ現有全海空勢力を以て、敵軍を上陸前に撃破
することに努め、次いで、全地上戦力を挙げて上陸せる敵軍に対し決
戦攻勢を採らんとするのになつた。

イ 作戦準備の進捗予定

才一期 四月―七月

応急態勢兵備の整備

才二期 八月―九月

態勢の強化

才三期 十月以降

完 整

ロ 作戦の骨子

イ、帝國陸軍は、速やかに戦備を強化して、敵必滅の戦略態勢を確
立し、主敵米軍の進寇を本土要域に於て邀撃する。

之が為、主戦面は、太平洋 及 支那海正面とし、戦備の重点
を、関東地方 及 九州地方 に 保持する。

ロ、敵の本土要部及略金圏に對しては、努めて之を岸上に撃破する

0010

と共に、上陸する敵に対し、果敢な攻勢をとり、神速に決勝を
求める。

▲、航空作戦指導の重点を敵の上陸全図破壊に指向し、其の主
攻撃目標を敵輸送船団とする。

Ｂ、陸上作戦は、上陸せる敵を求めて沿岸要域に圧倒撃滅して、
戦力に最終の決を求めるのを主眼とする。

陸上部隊は、仮令、航空部隊等の協力を欠く場合に於ても、
戦力を以て、その作戦を遂行するものとする。

○、国土の特性を活用し、特に拳国皆兵たる伝統の精髄を發揮
して作戦目的の完遂を期する。又、敵の内陸侵襲等の場合
を考慮し、野戦軍と呼応し、国土全般に亘り国内抗戦を準備
すると共に、国内警備の万全を期する。

五、右の中、国境警備 及 国内警備 については、後述(軍備)
管区部隊の基に於て編成する。

0011

以上の各戦場環境に基く基礎配置並に決戦時の兵額と弾薬糧食等の準備状況の概見は、附圖上に於ては夫と次の通りであつた。

兵力の基礎配置並決戦時の兵額

決戦時の 配置	基礎配置		兵 種 別 額	人員(万)	馬匹(万)	自動車(千)
	關東方面	九州方面				
關東方面	一、二八、〇	九、五、〇	五、一五、〇	三、三、一	五、〇、〇	一、六、〇
九州方面	九、九、〇	二、四、七	一、〇、〇	九、〇、〇	二、八、〇	九、八
	一、〇、二	三、九				

備考 右は陸軍に関する数値である。

0012

集 積 区 分

区分	沿岸配備兵団用集積			予備集積		
	彈藥分団	燃料 (貯)	糧秣 (二万人分)	彈藥	燃料	糧秣
九州方面	八	1,100	1,000(天)	四	7,000	1,200(天)
關東方面	五	500	100(天)	三	5,000	1,000(天)
東海方面	五	600	300(天)	一	4,000	600(天)
關東方面	八	1,500	500(天)	四	11,000	1,600(天)
東北方面	一	500	600(天)	一	5,000	500(天)
北方方面	一	500	600(天)	二	11,000	500(天)

備考 糧秣類(一) 内は馬用。単位一万頭一ヶ月分

0013